注目のイノベーティブカンパニー
INNOVATIVE COMPANY

上川大雪酒造

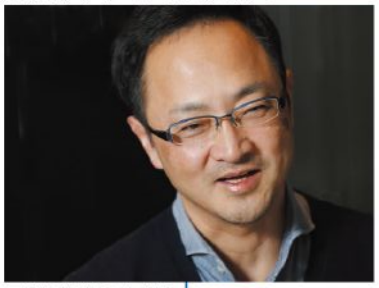
前代未聞 日本酒プロジェクトが始まった

北海道100%の酒が誕生!!

大雪山の麓の小さな町 上川町

あの川端慎治杜氏が造るお酒だから期待が膨らむ

少子高齢化で日本の人口は右肩下がりで減る時代を迎え、地方の小さな町は消滅集落の危機にさらされている。そんな中、町おこしのために北海道の真ん中にそびえる大雪山の麓の町、上川町で日本酒の酒蔵を立ち上げ、小仕込み・高品質にこだわった北海道産酒を誕生させて大反響を呼んでいるのが上川大雪酒造だ。この上川町の日本酒プロジェクトに、わが国の大きな課題である地方創生ビジネスのヒントが詰まっているのではないか。プロジェクトの立役者である上川大雪酒造の塚原敏夫社長に話を聞いた。



塚原敏夫 上川大雪酒造株式会社 代表取締役社長
1967年北海道札幌市生まれ。小樽商科大学卒、野村證券、外資系金融機関、リクルートEXを経て㈱三國プランニング代表取締役（現職）

「今年の夏に希少な試験醸造酒を返礼品に、インターネットで出資を募るクラウドファンディング支援サイト『Makuake（マクアケ）』を通じて実施したところ、首都圏や九州の方を含めて4週間の短い期間に1500人の支援者の方から1300万円以上の賛同が集まりました。これには、日本酒関連ではまだ最短のペース、驚きの声もいただきました」と、塚原社長は笑顔で話す。

その支援者の56%は北海道民だった。北海道は、最も日本トップクラスの国土の5分の1を占め、万年雪から湧き出るおいしい水にも恵まれている。それなのに、全国は賞・肇ともに日本一といわれるまでになっている。それなのに、全国は賞・肇ともに日本一とは言えない。

そもそも、どうして塚原さんは、この地に酒蔵を作ろうと思ったのか。

「高品質の北海道物産展」に三國と僕が参加するレストランも呼ばれたので、マスターは『実は、僕も代々続けて来た酒蔵をたたむことにしたんだよ』と、話し始めました」

そして、マスターは、会場にディスプレーされている大雪山が間近に迫っていたのです」

北海道物産展で再会した

三重県の酒蔵を北海道上川町に移転させる常識破りの発想と行動力が奇跡を呼んだ!

塚原敏夫 上川大雪酒造株式会社 代表取締役社長
1967年北海道札幌市生まれ。小樽商科大学卒、野村證券、外資系金融機関、リクルートEXを経て㈱三國プランニング代表取締役（現職）

「今年の夏に希少な試験醸造酒を返礼品に、インターネットで出資を募るクラウドファンディング支援サイト『Makuake（マクアケ）』を通じて実施したところ、首都圏や九州の方を含めて4週間の短い期間に1500人の支援者の方から1300万円以上の賛同が集まりました。これには、日本酒関連ではまだ最短のペース、驚きの声もいただきました」と、塚原社長は笑顔で話す。

その支援者の56%は北海道民だった。北海道は、最も日本トップクラスの国土の5分の1を占め、万年雪から湧き出るおいしい水にも恵まれている。それなのに、全国は賞・肇ともに日本一とは言えない。

そもそも、どうして塚原さんは、この地に酒蔵を作ろうと思ったのか。

「僕たちが小さい頃は、北海道は決して来どころでは無かった。しかし、今は環境が大きく変わっています。北海道のお米は日本一と言われるまでになっている。北海道の酒蔵の新酒が誕生した。が、11軒しかない。世界に自慢できる北海道産酒を待ち望む地元の人たちの期待の大きさが、この支援者の数字に表れているのだ。

「僕たちが小さい頃は、北海道は決して来どころでは無かった。しかし、今は環境が大きく変わっています。北海道のお米は日本一と言われるまでになっている。それなのに、全国は賞・肇ともに日本一とは言えない。

そもそも、どうして塚原さんは、この地に酒蔵を作ろうと思ったのか